

2月4日京都市長選挙に立候補を予定されている方々への

公開質問とその回答結果

「北山エリア・植物園」の開発計画について

府立植物園、府立大学、旧総合資料館跡地など貴重な文化教育施設を擁する「北山エリア」が将来どのようなようになるのか、地域住民にとって大きな関心事になっています。

2月の京都市長選挙はその意味でも大切な選挙であると考え、わたしたちは立候補予定の方々に、「北山エリア」についてのお考えを以下のように質問しました。なお、質問状を発送したのは12月3日、返送期限は12月13日でした。

2023年12月18日

京都府立植物園整備計画の見直しを求める会(なからぎの森の会)
植物園の環境と景観を守る北区の会

質問項目

- ① 京都府が2020年12月に公表した「北山エリア整備基本計画」について
- ② 京都市が2021年4月に公表した「都市計画マスタープラン地域まちづくり構想 ⑰ 北山文化・交流拠点地区」について

それぞれ、【賛成、反対、その他】から選び、その理由を200字以内でお書きください。

回答結果は

裏面

をご覧ください。

なお、投票日は2月4日(日) 期日前投票は1月22日～2月3日です。

(立候補者五十音順、敬称略)

ニ之湯 真士

質問①に、【賛成】 北山エリア整備基本計画に賛成です。京都は世界に冠たる先進都市としての活気を取り戻さねばなりません。そのためには住民の理解を得て、老朽化した植物園施設を放置することなく、必要な更新は断固として実施し、エリア全体の近代化と重層的な魅力を高めていかなければなりません。

質問②に、【賛成】 賛成します。北山エリアの近代化、再整備に伴ってそれにふさわしい周辺環境の実現は不可欠です。様々な施設が集積するメリットを生かし、それらを複合的に結び付けて活性化させることが、京都市街北部のにぎわいにつながります。また、当エリアの再整備は激甚化する災害への対応拠点となりえるという意義も見逃せません。住民の理解を得ながら、進めていくべきだと考えます。

福山 和人

質問①に、【反対】 この計画は「にぎわい創出」を軸とした開発中心の計画で、住環境や学生の利便、植物園機能等への悪影響のおそれや、地元住民の根強い反対、莫大な財政負担に鑑みれば、賛成できません。来年開園 100 周年を迎える府立植物園は「生きた植物の博物館」として発展させること、1 万人のアリーナ建設は白紙撤回することが、16 万筆超の民意に応える道です。旧府立総合資料館跡地活用も住民的な論議が必要です。

質問②に、【反対】 都市計画マスタープランの当該部分は、「北山エリア整備基本計画」をそのまま写したもので、すでに、当初の府立植物園やアリーナ建設計画は住民や学生、職員の反対等により頓挫しつつあり、しかも高さ規制の緩和など、京都市が無用な開発に協力するものとなるため、撤回し、住民合意で見直します。

松井 孝治

質問①に、【賛成】 文化芸術の発信や賑わい交流機能を持つ施設の整備により、北山エリアを京都が世界に誇る文化と憩いに包まれた交流エリアとする北山エリア整備基本計画は、私が目指す「魅力ある文化首都・京都」にもつながるものです。地域にお住まいの方、大学や植物園など幅広い関係者の方の意見を丁寧にお聞きし、プロセスを大切に取組を進めていくことが大切と考えます。

質問②に、【賛成】 地域まちづくり構想 北山文化・交流拠点地区は、京都府の北山エリア整備基本計画が京都市の都市計画の方針に沿ったものであることから、都市計画マスタープランに位置付けたとされています。このため、①の回答と同様、京都府と京都市が密に調整し、自然を大切にしながら、憩いと活力のあるまちづくりを丁寧に進めていくことが大切と考えます。

村山 祥栄

質問①に、【その他】 これまでから地元の方々とも議論を重ねてきましたが、あくまで植物園としての機能維持が優先であること、地元の皆様にご迷惑がかからない施設として整備すること、これらが整備する際の条件と考えます。特にアリーナについては駐車場の著しい不足をはじめ、課題が山積しており、現状のままで誘致は困難です。一定賑わいをつくり皆様に喜んで活用頂ける整備になるよう引き続き議論を重ねていくべきと考えています。

質問②に、【その他】 北山を元気にするために文化交流拠点にすることは賛成ですが、①の質問と同様の課題もありますので、原案全てに賛成申し上げられないのが原状です。